上原コレクション名品選

きれいなかわいいお経

お経

上：善財童子絵　鎌倉～南北朝時代　紙本彩色　※新収蔵・初公開
下：雲紙法華経断簡（部分）　平安時代　彩箋墨書　※新収蔵・初公開

2023年
1月21日（土）
―4月16日（日）

会期中無休

開館時間―午前9時30分―午後4時30分
（入館は午後4時まで）

入館料―大人1000円／学生500円／高校生以下無料
＊仏教館・近代館の共通券です
＊団体10名以上は10％割引

東洋と西洋の美の出あい
上原美術館
Uehara Museum of Art

uehara collection

梅原龍三郎《江ノ浦 残月》昭和11（1936）年、上原美術館蔵　※新収蔵・初公開

梅原龍三郎と伊豆

特別展

2023年
1月21日（土）
―4月16日（日）

会期中無休

開館時間―午前9時30分―午後4時30分
（入館は午後4時まで）

入館料―大人1000円／学生500円／高校生以下無料
＊仏教館・近代館の共通券です
＊団体10名以上は10％割引

協力―株式会社エイ・ケイ・ジェイ

東洋と西洋の美の出あい
上原美術館
Uehara Museum of Art

梅原龍三郎と伊豆

特別展

日本近代洋画を代表する画家のひとりである梅原龍三郎（1888–1986年）は、伊豆と深い縁がありました。梅原は生涯を通じて熱海や江ノ浦、大仁など伊豆や周辺の地を訪れます。そこで生まれる雄壮できらびやかな作品群は、代表作として広く知られるようになりました。

梅原はフランス留学から帰国した20代半ば、日本の風土をどのように描くか模索を重ねます。南仏を思わせる《熱海風景》は伊豆の風土を通じて日本独特の湿潤な光をあらわしています。40代になると熱海にある友人の別荘に度々滞在して、《紅良像》や《来の宮》を描きます。この頃の夏、梅原は家族とともに伊豆・西海岸の江ノ浦を訪れ、《江ノ浦 残月》など日本の風景を雄壮にとらえた独自の画風を確立していきます。第二次世界大戦が始まると、梅原は大仁に疎開しました。山上にある大仁ホテルに滞在した梅原は、そこから見える富士の威容に魅了され、戦後、富士山シリーズが生まれます。

本展では伊豆にまつわる初期から晩年の絵画を通じて、梅原龍三郎と伊豆の関係を紹介するほか、新たに発見された伊豆日記などの資料から、その時代背景を探ります。そのほか、《黄金の首飾り》や《ナルシス》など初期の代表作を合わせて展示し、梅原芸術の魅力に迫ります。

＊関連イベント等につきましては、ホームページにてお知らせいたします。

梅原龍三郎《来の宮》昭和10（1935）年頃、個人蔵

梅原龍三郎《Eve》昭和20（1945）年、東京国立近代美術館蔵

梅原龍三郎《富士》昭和20（1945）年、上原美術館蔵

- **お車で** 新東名高速道路 長泉沼津ICより
  下田方面へ 1時間40分
- **鉄道・バスで** 東京駅より特急踊り子号
  2時間40分　伊豆急下田駅下車
  同駅より堂ヶ島方面行バス 20分
  相玉下車 徒歩15分

梅原龍三郎《熱海風景》大正6（1917）年、東京国立近代美術館蔵

梅原龍三郎《紅良像》昭和6（1931）年、個人蔵

東洋と西洋の美の出あい
上原美術館
Uehara Museum of Art
〒413-0715 静岡県下田市宇土金341
Tel. 0558-28-1228 www.uehara-museum.or.jp

上原コレクション名品選

きれいなお経 かわいいお経

uehara collection

釈尊、諸仏の言葉とされるお経は、仏教徒にとって聖なる書物です。お経は心を込めて書写されるとともに、時に特別な料紙を用いたり、扉絵を描いたりして、装飾されました。本展はそのような「きれいなお経」を展示する企画展です。

平安時代には、藍で深く染めた紺紙に、金泥や銀泥で経文を書写する経典が多く制作されました。このうち名高いものに、奥州藤原氏の初代、藤原清衡が制作した中尊寺経、鳥羽天皇の発願による神護寺経、鳥羽天皇の皇后、美福門院が発願した荒川経があり、いずれも仏教の主要な経典や典籍を集成した、五千数百巻からなる一切経です。このうち当館はすでに中尊寺経、神護寺経を所蔵していましたが、新たに、荒川経を収蔵。本展ではこの三つをあわせて展示いたします。

紺紙金字経の変わり種が、一字宝塔法華経断簡です。紺紙に金泥で沢山の宝塔を描き、一基の宝塔に法華経の一文字を納めるように書写したもので、平安時代、長寛元年（一一六三）に心西という僧によって制作されたお経。本経も当館で新収蔵、初公開します。また、上下に藍のぼかしを入れ、銀箔を散らした料紙を用いた平安時代の古写経、雲紙法華経断簡（新収蔵）も本展で初めて展示いたします。

当館ではこのたび、鎌倉後期から南北朝時代に描かれた「善財童子絵」も収蔵いたしました。本図は二巻からなる巻物の断簡で、華厳経の入法界品の一場面を描くものです。入法界品は、数十巻からなる華厳経の後半、菩薩の道を求める善財童子が、各地の五十三人の善知識を訪ね、教えを受けるエピソードを記す部分です。このうち新収蔵の図は、善財童子が、三十四人目の善知衆芸童子を訪ねる場面。幼さの残る顔立ちの若き二人の求道者が、美しい自然の中で出会うさまを描く本図は、淡い色彩とあいまって、幻想的で詩情豊かな作品です。

きれいなお経、かわいい挿絵が描かれたお経や絵巻の数々をご覧ください。

荒川経（紺紙金字大般若経・巻一四二） 平安時代後期

一字宝塔法華経断簡 平安時代（長寛元年・1163）

雲紙法華経断簡 平安時代

平基親願経（紺紙金字法華経・巻五） 平安時代（治承4年・1180）